『日本体育大学大学院教育学研究科紀要』
第４巻第１号　2020（pp.161 - 179）

【原著論文】

# 小学校体育科における運動領域と保健領域の関連を図った指導計画に関する基礎的研究
## ―埼玉県内の公立小学校体育主任を対象とした質問紙調査―

森田　哲史[*1]・今関　豊一[*2]・近藤　智靖[*2]
[*1] 日本体育大学大学院教育学研究科博士後期課程
[*2] 日本体育大学

本研究の目的は、小学校体育科における運動領域と保健領域の関連を図った指導計画の現状を把握することである。

埼玉県内の公立小学校に勤務する体育主任 500 名を対象に調査を行った。教職経験は、6.71±3.43 年であった。

主な結果は次の通りである。

1) 体育主任としての教職経験年数に関わらず、運動領域と保健領域の関連を図った指導計画は、未だ定着していない。

2) 「行事との関係」「季節や気候との関係」を理由に、保健領域の配置される時期が決定されている。

3) 保健領域の授業で運動領域との関連を図った指導をすることの意識に比べ、運動領域の授業で保健領域との関連を図った指導をすることの意識は低い。

キーワード：小学校，体育，保健，指導計画

# Basic Study on the Instructional Plan for Relationships Between Physical Education and Health Education in Elementary Schools
## —Questionnaire Survey for Physical Education Chief of Elementary Schools in Saitama Prefecture—

Satoshi MORITA*[1], Toyokazu IMAZEKI*[2], Tomoyasu KONDOH*[2]
*[1] Graduate Student of Doctor Course, Graduate School of Education, Nippon Sport Science University
*[2] Nippon Sport Science University

The purpose of this study was to investigate the current situation of the instructional plan for the relationship between physical education and health education in elementary schools.

Authers conducted a survey of 500 physical education chief of the elementary school in Saitama Prefecture. The average teaching experience was 6.71±3.43 years.

The main results were as follows:

1) The instructional plan to connect physical education and health education was not established irrespective of experience as physical education chief.
2) It depended on school events, the season, and the climate when teachers conducted lessons about health education in school.
3) Compared to teaching physical education in health education, there was less awareness of teaching the content of health education in physical education.

**Key Words:** Elementary school, Physical education, Health education, Instructional plan

## 1. 緒言

2017 年 3 月に新しい学習指導要領が文部科学省（2017a)より告示され、各学校では新たに体育科年間指導計画の作成がされている。文部科学省(2017b）から示され年間指導計画作成の拠り所となる小学校学習指導要領解説体育編（以下、学習指導要領解説とする）の内容の取扱いにおいて、「各領域の各内容については、運動領域と保健領域との関連を図る指導に留意すること」が初めて示された。これはカリキュラム・マネジメントの考え方を背景に、教科の領域間の指導内容を相互に横断させていくことで、健康や豊かなスポーツライフの実現に向けた教育の質向上を企図した方策の一つと捉えられる。このことから、今後の小学校体育科において「運動領域と保健領域の関連を図った指導(以下､｢関連を図った指導｣とする)」が今後ますます求められていく。

ところで、体育科において運動領域と保健領域の関連を図る必要性が示唆されたのは、今回の改訂がはじめてではない。歴史的に振り返ってみると体育科における運動領域と保健領域との関係は、戦後直後の1947年には一つの話題となっている。文部省から出された学校体育指導要綱（文部省，1947）では、新教育の基本的方向である「健康の重視」を受けて、体育科を運動領域と保健領域の合科型教科として捉え、運動領域と保健領域とを融合している。しかし、2 年後に改訂された学習指導要領小学校体育編（文部省，1949）では、運動領域と保健領域とを分離する方針となっている。

その後、保健授業実施率の低迷や担当教員の能力の問題が取り上げられるたびに、この二つの領域の関係について様々な論議を呼び、数多くの有識者が発言をしている。たとえば、高橋（1996）は、二つの領域の関係性について「一体化論」「融合論」「分離論」という 3 つにまとめている。

近年では 1998 年の改訂時にも「心と体を一体として捉える」という目標が掲げられ、運動領域と保健領域の関連を図る必要性が示唆されている。

ちなみに、民間教育研究団体に目を向けてみると､｢からだづくり｣というテーマで教育科学研究会「身体と教育」部会が、戦後より体育教育論を展開しており、運動領域や保健領域の授業実践を展開してきた経緯がある。

以上のように運動領域と保健領域はその関連を巡って様々に議論されてきた経緯がある。しかし、その関連の具体については十分に示されておらず、新しい学習指導要領解説も同様に具体は示されていない。

このように「関連を図った指導」という方向性は示されても、実際に学校現場で実施していくための具体が示されていないこともあり、実施にあたって学校現場ではどのようにして良いか分からないといった戸惑いの声が上がることも予見されている。また、学術研究に目を向けても、管見の限りでは、こうした「関連を図った指導」という視点に応えるような研究論文は見られていない。

もっとも、2010 年代になると、学会において運動領域と保健領域の関連についての議論がなされており、2015～2017 年の日本体育学会においては 3 年続けてシンポジウムが開催されている。2015 年の体育科教育学専門領域と保健専門領域との合同シンポジウムでは、体育と保健の授業に関する現職教師に求められる資質や能力について議論がなされている。また、2016 年のシンポジウムでは、体育の内容と保健の内容を関連付けるようなカリキュラムの可能性、学校内でのネットワークづくりなどについて議論がなされている。その中で、野井（2017)は、「体育」と「保健」が「からだ」をテーマに実践を組み立てることは，両分野・両科目の関連性のために必要なのではなく、必然であると述べている。さらに 2017 年のシンポジウムでは、体育と保健のカリキュラム・マネジメントや、体育と保健を関連付けながら授業ができる教員養成について議論がなされている。

これらの近年の動向から、学会において運動領域と保健領域の関連性が話題になっていることは明らかであり、また、学校現場においても学習指導要領の方針の影響から、今後、具体的な授業実践を基に二つの領域の関連性を図った指導が進むと考えられる。しかし、先述した通り、その関連

の実態や在り方については、ほとんど触れられていない状況であることから、まずは学校現場の実態について調査をする必要があると考えている。とりわけ指導計画の現状について確認をしていく必要があると考え、以下の目的を設定する。

## 2. 目的

本研究の目的は、小学校体育科における運動領域と保健領域の関連を図った指導計画の構築に向けた基礎資料を得るために、体育主任に対して二つの領域に関する質問紙調査を行い、指導計画の現状を把握することである。

特に、教職経験年数、保健領域配置時期の理由、体育授業における運動領域と保健領域に対する意識の差が「関連を図った指導」とどのように関係しているかを検証することとした。

## 3. 方法

### 3.1 調査対象・時期及び調査方法

埼玉県内の公立小学校に勤務する体育主任を対象に、無記名自己記入式の質問紙調査を行った。埼玉県内の全809校の学校長宛に質問紙を郵送し、任意での回答及び返信用封筒での返送を求めた。体育主任を対象とした理由は、体育科年間指導計画作成の中心となる者は、体育主任であるためである。調査に先立ち、文書によって調査の目的、被験者の権利、利益などを説明し、協力に同意した体育主任についてのみ回答を求めた。

2019年2月4日に郵送にて配付し、2019年2月18日までに郵送にて返送を求めた。

質問紙調査の回収数は509名、回収率は62.9%であった。

回答者に体育主任以外の者（体力向上推進担当、体育部に所属）が3名、全ての項目に回答のなかった者が6名おり、計9名を分析から除外し、有効回答数は500名となった。

なお、本研究は日本体育大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施され、質問紙とあわせて、本研究に対する説明書を同封し、質問紙に回答していただいた方は本研究への了承を得たものとして行った（研究倫理承諾番号019-H103号）。

### 3.2 調査内容と質問紙の構成

調査内容については、高倉・小林（2003）、小林・高倉（2003、2005）、田中ら（2016）、日本学校保健会（2016）の全国調査、スポーツ庁（2018）の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の質問紙項目を参考にした。

高倉・小林（2003）、小林・高倉（2003、2005）は、沖縄県の小学校教員を対象に保健領域の実施状況及び小学校教員の保健領域に対する意識を縦断的に調査している。田中ら（2016）は、小学校・中学校・高等学校における保健学習を担当する者の保健学習に対する意識・イメージ等について検討している。これらの研究では「関連を図った指導」についての調査は行われていないものの、年間指導計画の有無や教員の意識を調査していることから、とりわけ本研究の質問紙項目作成の参考とした。

調査の目的等を示したフェイスシートを加えた計5枚の質問紙となった。本研究の質問紙項目は下記の通りである。

体育主任の所属校における体育科年間指導計画作成に係る取組について「はい」「いいえ」「わからない」で回答を求めた。特に、「貴校では、運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていると思われますか」に続けて「上記の項目で『はい』『いいえ』を選ばれた方は、その理由をお聞かせください。」という設問に対して、自由記述で回答を求めた。ここでは、体育科年間指導計画の現状を調査するために設定した（資料2参照）。

また、第3学年以上の保健領域の配置月を記述式で回答を求めた。続けて、保健領域がその月に配置されている理由について自由記述で回答を求めた。ここでは、保健領域の配置と「関連を図った指導」の関係について調査するために設定した（資料2参照）。

さらに、体育主任の対象の体育授業における運

動領域と保健領域に対する意識を調査するため、「あなたは、運動領域の授業で、健康三原則（運動、栄養（食事）、睡眠のバランスをとること）の大切さを、取り上げていますか。（以下、体育授業への意識 Q1）」「あなたは、保健領域の授業で、健康三原則（運動、栄養（食事）、睡眠のバランスをとること）の大切さを、取り上げていますか。（以下、体育授業への意識 Q2）」「あなたは、運動領域の授業で、保健領域との関連を図った指導を意識していますか。（以下、体育授業への意識 Q3）」「あなたは、保健領域の授業で、運動領域との関連を図った指導を意識していますか。（以下、体育授業への意識 Q4）」という設問に対して、6 件法で回答を求めた（資料 3 参照）。

最後に、体育主任の「関連を図った指導」の印象、体育主任の「関連を図った指導」に取り組んでいく上での対応について調査するために、各設問に対して、6 件法で回答を求めた（資料 3、4 参照）。

### 3.3 統計処理

上記の質問紙調査の統計処理には SPSS statistics ver.25.0 を用いて記述統計、$\chi^2$検定、Wilcoxon の符号付き順位検定を適用し、有意水準は 5%とした。

### 3.4 自由記述の分析－テキストマイニング

テキストマイニングを用いた研究が体育科教育の分野においても展開されており、たとえば教育実習生が体育の授業での工夫について自由記述した回答を分析した杢子ほか（2013)の研究をはじめ、大後戸ほか（2013)、佐伯・藤田（2018)の研究がある。以上のように、テキストマイニングは、自由記述を質的に研究する上で有用であることから、本研究においても、質問紙の自由記述についてはテキストマイニングによって分析した。

なお、分析には樋口(2020)が開発した「KHcoder」を用いた。分析手法として、出現語句の回数と内容、及び出現語句の共起関係を調べた。

## 4. 結果と考察

以下では、「3.2 調査内容と質問紙の構成」に従って、結果と考察を示していく。

### 4.1 対象集団の特徴

対象集団の人数と性別の割合は、男性 472 名(94.4%)、女性 21 名(4.2%)、性別無回答 7 名(1.4%)であった。

平均年齢と標準偏差は 31.37±4.40（歳）、平均教職経験年数と標準偏差は 6.71±3.43（年）、平均体育主任経験年数と標準偏差は 3.57±2.53（年）であった。

Berliner（1988)、吉崎（1998)、木原（2004)らの研究を参考に、教職員評価に採用されている経験年数に応じたキャリア段階でみると、Ⅰ段階（教職経験年数 5 年以下）、Ⅱ段階（教職経験年数 6 年以上 15 年以下）、Ⅲ段階（教職経験年数 16 年以上）の人数と割合は、Ⅰ段階は 211 名（42.2%）、Ⅱ段階は 282 名（56.4%）、Ⅲ段階は 7 名（1.4%）であった。

また、教育公務員特例法第 24 条に規定されている中堅教諭等資質向上研修を受けることとなる教職経験年数 10 年を区切りとして、Ⅱ段階前期（教職経験年数 6 年以上 10 年以下）とⅡ段階後期（教職経験年数 11 年以上 15 年以下）に分け、４段階としたキャリア段階でみると、Ⅰ段階は

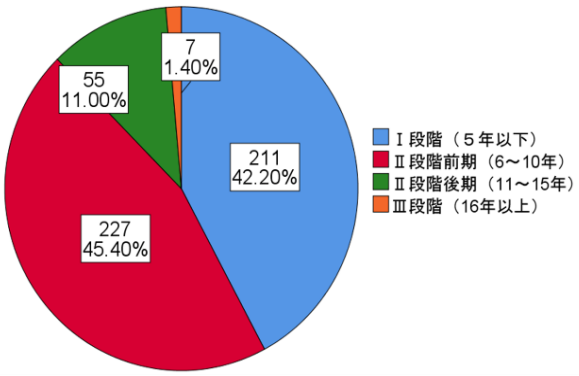


図１　対象集団のキャリア段階別の割合

表１　貴校では、運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていると思われますか

| | | はい | いいえ | わからない | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| キャリア段階 | Ⅰ段階<br>（5年以下） | 35%<br>（74人） | 28%<br>（59人） | 37%<br>（78人） | 100%<br>（211人） |
| | Ⅱ段階前期<br>（6年以上10年以下） | 33%<br>（76人） | 36%<br>（81人） | 31%<br>（70人） | 100%<br>（227人） |
| | Ⅱ段階後期<br>（11年以上15年以下） | 33%<br>（18人） | 29%<br>（16人） | 38%<br>（21人） | 100%<br>（55人） |
| | Ⅲ段階<br>（16年以上） | 29%<br>（2人） | 29%<br>（2人） | 42%<br>（3人） | 100%<br>（7人） |
| | 合計 | 34%<br>（170人） | 32%<br>（158人） | 34%<br>（172人） | 100%<br>（500人） |

211 名（42.2%）、Ⅱ段階前期は 227 名（45.4%）、Ⅱ段階後期は 55 名（11%）、Ⅲ段階は 7 名（1.4%）であった（図１）。

これらの結果から、埼玉県内の公立小学校に勤務する体育主任には、男性が多く、教職経験年数が 10 年以下の教諭が多いことが分かった。

### 4.2 キャリア段階と年間指導計画における関連性への意識の有無について

表１では、体育主任のキャリア段階と「貴校では、運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていると思われますか」という問とのクロス集計をし、その後、$\chi^2$検定を行ったところ、有意差は認められなかった（$\chi^2$=4.00, df=6, N.S.）。

キャリア段階に関わらず、約３分の１にあたる 158 名（31.6%）の体育主任が、「運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていない」と回答しているに留まっていることから、運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画作成は、未だ定着していないことが示唆された。

また、キャリア段階に関わらず、約３分の１にあたる 172 名（34.4%）の体育主任が、「運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっているかわからない」と回答していることから、関連性そのものを十分に理解していない実態が明らかになった。

表 2　運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっている理由についての自由記述における頻出語上位 60 のリスト

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 領域 | 79 | 体つくり運動 | 12 | 段階 | 6 |
| 運動 | 65 | けがの防止 | 11 | 必要 | 6 |
| 保健 | 65 | 図る | 11 | 授業 | 5 |
| 関連 | 35 | 年間 | 11 | 生かせる | 5 |
| 学習 | 34 | 体育 | 10 | 体力テスト | 5 |
| 指導 | 30 | 学ぶ | 9 | 跳び箱 | 5 |
| 時期 | 28 | 関係 | 9 | 病気の予防 | 5 |
| 計画 | 26 | 合わせる | 9 | 予防 | 5 |
| 体 | 26 | 作成 | 9 | 理解 | 5 |
| 学年 | 24 | 生活 | 9 | 安全 | 4 |
| 行う | 23 | 設定 | 9 | 運動会 | 4 |
| 意識 | 14 | 発達 | 9 | 感じる | 4 |
| 学期 | 14 | 体ほぐしの運動 | 8 | 教諭 | 4 |
| 前 | 14 | 扱う | 7 | 見直す | 4 |
| 内容 | 14 | 考える | 7 | 行事 | 4 |
| 配置 | 14 | 心の健康 | 7 | 実施 | 4 |
| 心 | 13 | 応じる | 6 | 図れる | 4 |
| 単元 | 13 | 思う | 6 | 前後 | 4 |
| 健康 | 12 | 児童 | 6 | 多い | 4 |
| 水泳 | 12 | 体力 | 6 | 多様 | 4 |

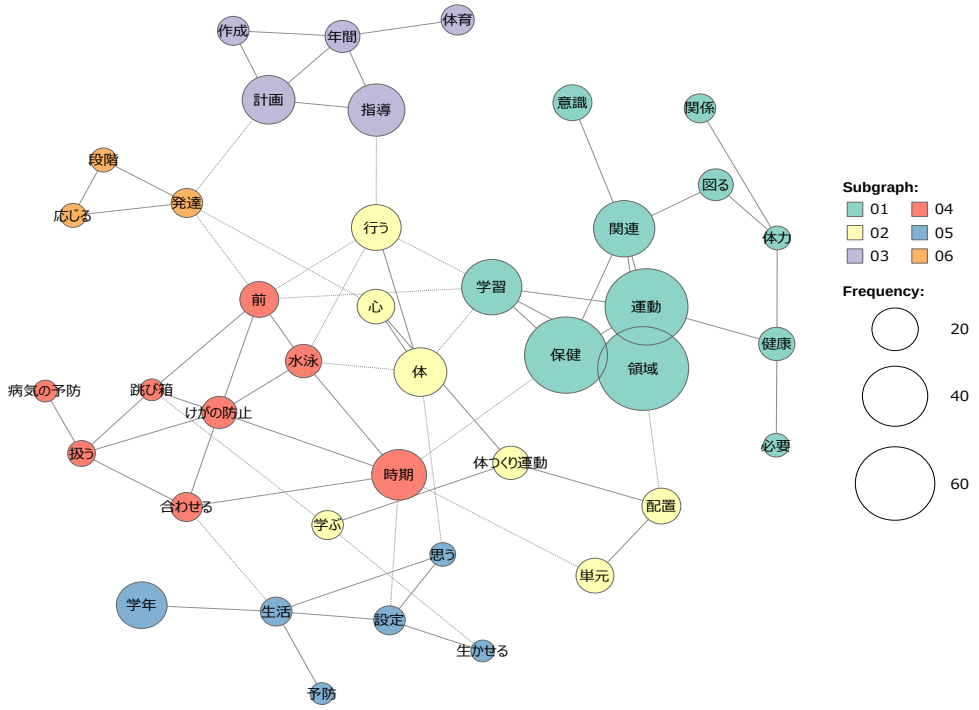


図２　運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっている理由について

の自由記述における共起ネットワーク

### 4.3 年間指導計画における 2 領域の関連性への意識に関する自由記述の分析

ここでは、「貴校では、運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていると思われますか」に対する回答の理由に関わる自由記述について分析を行った。

#### 4.3.1 関連していると回答した理由

「はい」と回答した 170 名中、128 名（75.3%）が自由記述で回答をした。記述の総抽出語数は 3680 語であった。表 2 は、出現回数の多い語句を順に 60 位まで抽出した結果である。運動領域、保健領域の内容の名称、行事名を一つの語句として抽出するため、強制抽出する語として「体つくり運動」「体ほぐしの運動」「健康な生活」「体の発育・発達」「けがの防止」「心の健康」「病気の予防」「体力テスト」を指定した。

図 2 は、自由記述の中で強調された語句やそれらの関連性を推測することができるネットワークマップである。強い共起関係であるほど太い線で描画され、出現回数が多い語句ほど大きい円で描画されている。出現回数による語句の取捨選択は、最小出現回数 5 とした。

前述したように、「領域」という語句の出現回数が 79 で最も多く、「運動」「保健」「関連」「学習」と強い共起関係にあった。「領域」を含む自由記述には、次のようなものがあった。

「3・4 年において、保健領域での『運動が、生涯を通じて骨や筋肉などを丈夫にする効果が期待できるものである』との学習を受け、その後に体つくり運動を配置し、関連を図っているため。5・6 年において、保健領域での『病気の予防と全身を使った運動との関連』についての学習を受け、その後に体ほぐしの運動や体力を高める運動を配置し、関連を図っているため。」

「5 年生の 6 月『心の健康』について取り扱い、体つくり運動やその他の領域で学んだことが生かせるようにする。」

「運動領域と保健領域をどの時期に配置するかで生活や運動の中で、生かせるように適切な時期に設定した。」

また、「体」の出現回数が 26 回で第 9 位、「行う」の出現回数が 23 回で第 11 位となっている。

表 3　運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていない理由についての自由記述における頻出語上位 60 のリスト

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 領域 | 110 | 学校 | 10 | 体 | 5 |
| 保健 | 82 | 考慮 | 10 | 難しい | 5 |
| 関連 | 72 | 優先 | 10 | 年 | 5 |
| 運動 | 63 | 校庭 | 9 | 本校 | 5 |
| 計画 | 35 | 学習 | 8 | 意図 | 4 |
| 意識 | 27 | 思う | 8 | 雨天 | 4 |
| 時期 | 27 | 体育 | 8 | 学期 | 4 |
| 指導 | 25 | 特に | 8 | 教科書 | 4 |
| 考える | 19 | 関連付ける | 7 | 決める | 4 |
| 行事 | 18 | 実施 | 7 | 現在 | 4 |
| 行う | 16 | 設定 | 7 | 言える | 4 |
| 図る | 16 | 関係 | 6 | 場所 | 4 |
| 年間 | 14 | 授業 | 6 | 組み合わせ | 4 |
| 作成 | 13 | 図れる | 6 | 卒業 | 4 |
| 体育館 | 13 | 水泳 | 6 | 他 | 4 |
| 単元 | 13 | 段階 | 6 | 配列 | 4 |
| 学年 | 12 | 発達 | 6 | 6月 | 3 |
| 使用 | 11 | 見直し | 5 | クラス | 3 |
| 内容 | 11 | 合わせる | 5 | プール | 3 |
| 配置 | 11 | 児童 | 5 | 雨 | 3 |

「体」「行う」を含む自由記述には、次のようなものがあった。

「第 3 学年では、運動をするから健康でいられる等の指導を行っている。第 5 学年では、身体を動かすことで、気持ちにも変化がおこる等の指導を行っている。第 6 学年では、運動習慣が、生活習慣病の予防につながる指導を行っている。」

「保健領域で学習した心と体の発達を生かしながら、体つくり運動の指導を行っている。」

これらの結果と自由記述の文脈から、運動領域と保健領域の学習内容のつながりを意識して指導したり配置したりすることを「関連」と捉えている教師が多いのではないかと考えられる [1)]。

### 4.3.2 関連していないと回答した理由

「いいえ」と回答した 158 名中、138 名（87.3%）が自由記述で回答をした。記述の総抽出語数は 3447 語であった。表 3 は、出現回数の多い語句を順に 60 位まで抽出した結果である。運動領域、保健領域の内容の名称、行事名を一つの語句として

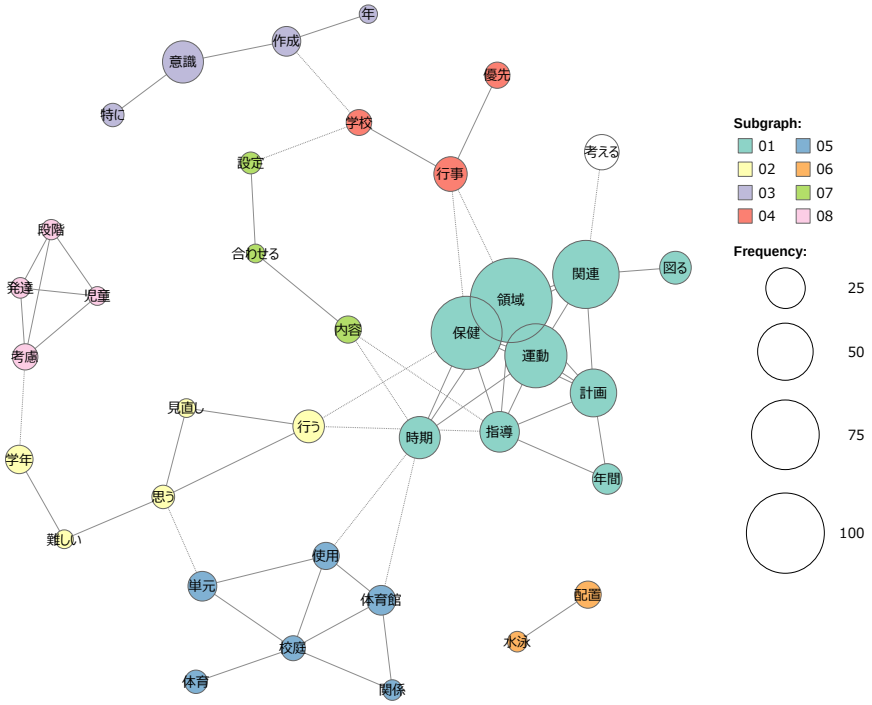


図 3　運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていない理由についての自由記述における共起ネットワーク

表 4　保健領域配置時期の理由についての自由記述における頻出語上位 60 のリスト

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 時期 | 59 | 行う | 20 | 単元 | 11 |
| 行事 | 44 | 水泳 | 20 | 段階 | 11 |
| 学年 | 42 | 設定 | 20 | インフルエンザ | 10 |
| 学期 | 41 | 運動会 | 18 | 多い | 10 |
| 領域 | 33 | 考える | 18 | 薬物 | 10 |
| 学習 | 32 | 体育 | 18 | ２月 | 9 |
| 配置 | 31 | 病気 | 17 | 児童 | 9 |
| 保健 | 31 | 予防 | 17 | 時数 | 9 |
| 運動 | 30 | ６月 | 16 | 冬 | 9 |
| 学校 | 29 | 授業 | 16 | 内容 | 9 |
| 体 | 29 | 心 | 16 | 梅雨 | 9 |
| 体育館 | 28 | 健康 | 15 | 本校 | 9 |
| 指導 | 27 | 防止 | 15 | 扱う | 8 |
| 兼ね合い | 26 | 生活 | 14 | 雨天 | 8 |
| 使用 | 24 | 流行 | 14 | 計画 | 8 |
| 校庭 | 23 | 実施 | 13 | 向ける | 8 |
| 関係 | 22 | 発達 | 13 | 使える | 8 |
| 関連 | 22 | 意識 | 12 | 卒業 | 8 |
| 合わせる | 22 | ３月 | 11 | 入れる | 8 |
| 前 | 21 | プール | 11 | 理解 | 8 |

抽出するため、強制抽出する語として「体つくり運動」「体ほぐしの運動」「健康な生活」「体の発育・発達」「けがの防止」「心の健康」「病気の予防」「体力テスト」を指定した。

図 3 は、関連を図った体育科年間指導計画になっていない理由についてのネットワークマップである。出現回数による語句の取捨選択は、最小出現回数 5 とした。

「はい」と回答した者の自由記述と同様、「領域」という語句の出現回数が最も多かった。「運動」「保健」「関連」「計画」「指導」「時期」と強い共起関係にあった。「領域」を含む自由記述には、次のようなものがあった。

「現状、運動と保健領域の関連を図った年計を見たことがないです。」

「運動領域同士のつながりを意識した指導計画になっているが、保健は時期を考えて計画しているため、運動領域と保健領域の関連については、あまり意識されていない。」

また、「意識」の出現回数が 27 回で第 6 位となっている。「意識」を含む自由記述には、次のようなものがあった。

「特に意識したことがなかったため。」

「特に関連は意識していませんでした。今後意識していきます。」

「関連を図るという意識はうすいというか、無いように感じます。」

これらの結果と自由記述の文脈から、関連を図った経験がなかったり、意識していなかったりするため「関連」を図った年間指導計画にはなっていないと回答した教師が多いのではないかと考えられる。

### 4.4 保健領域配置時期の理由

「貴校の第 3 学年以上の保健領域の配置が、上記の項目 9～12 の月に配置されている理由がありましたら、それぞれについてお聞かせください。」という設問に対して、209 名（41.8%）が自由記述で回答をした。記述の総抽出語数は 5158 語であった。表 4 は、出現回数の多い語句を順に 60 位まで抽出した結果である。強制抽出する語は指定しなかった。

図 4 は、保健領域配置時期の理由についてのネットワークマップである。出現回数による語句の取捨選択は、最小出現回数 5 とした。

「時期」という語句の出現回数が 59 で最も多かったが、他の語句との関係は見られなかった。「行事」という語句の出現回数が 44 で次に多く、「学校」「兼ね合い」と強い共起関係にあった。ま

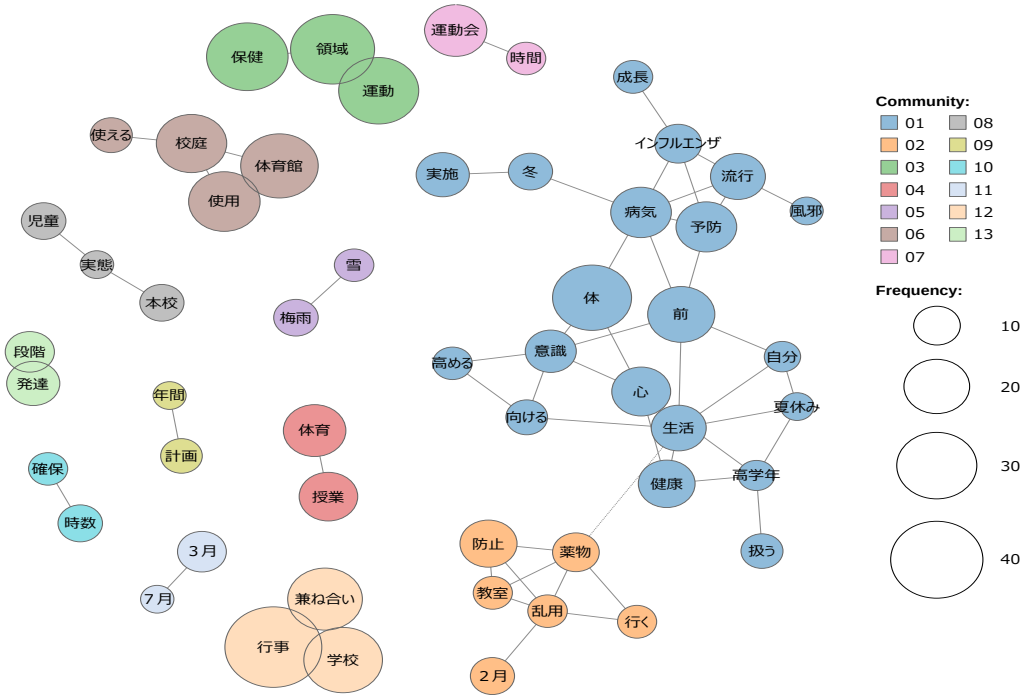


図４　保健領域配置時期の理由についての自由記述における共起ネットワーク

た、施設に関する語句の出現回数が「体育館」28、「校庭」23 となっており、強い共起関係にあった。

主な自由記述には、次のようなものがあった。

「6、7 月は、雨が降ったときの授業として、保健を計画している。2 月は、グランドに霜が降りたり、体育館は卒業関係で使えなかったりするため、保健を計画している。」

これらの結果と自由記述の文脈から、「行事との関係」「季節や気候との関係」を理由に、保健領域の配置される時期が決定されており、年間指導計画上で運動領域との関連を意識した配置をしている学校は、あまり多くないことが明らかとなった。

日本学校保健会（2016)の調査では、小学校教員の 59.0%が「保健学習を冬季・梅雨時期などある時期に集中して行った」と回答している。本調査結果は、この回答を裏付ける理由の一つになるのではないかと考えられる。

### 4.5 体育授業における運動領域と保健領域に対する意識の差

表 5 は「体育授業への意識 Q1」と「体育授業への意識 Q2」の度数分布を表している。設問に対する回答が正規分布でなかったため、ノンパラメトリック法を用い、その有意差を表している。この結果から、保健領域の授業で、健康三原則（運動、栄養（食事)、睡眠のバランスをとること）の大切さを取り上げる意識に比べ、運動領域の授業で、同様の内容の大切さを取り上げる意識は低いことが示された。この差は、学習指導要領解説におい

表 5　健康三原則の大切さを取り上げる意識の比較

| | 体育授業への意識Q1<br>運動領域 | 体育授業への意識Q2<br>保健領域 |
|---|---|---|
| 1：全くあてはまらない | 2.0%<br>(10人) | 0.2%<br>(1人) |
| 2：ほとんどあてはまらない | 5.4%<br>(27人) | 0.0%<br>(0人) |
| 3：あまりあてはまらない | 13.0%<br>(65人) | 1.4%<br>(7人) |
| 4：ややあてはまる | 29.4%<br>(147人) | 4.4%<br>(22人) |
| 5：だいたいあてはまる | 33.2%<br>(166人) | 31.2%<br>(156人) |
| 6：非常にあてはまる | 17.0%<br>(85人) | 62.8%<br>(314人) |
| 合計 | 100.0%<br>(500人) | 100.0%<br>(500人) |

Wilcoxon の符号付き順位検定
z 値 15.80　p 値 0.000

て、運動領域には健康三原則((運動、栄養(食事)、睡眠のバランスをとること)についての記載がないことが原因として考えられる。

表 6 は「体育授業への意識 Q3」と「体育授業への意識 Q4」の度数分布とその有意差を表している。この結果から、保健領域の授業で運動領域との関連を図った指導をすることの意識に比べ、運動領域の授業で保健領域との関連を図った指導をすることの意識は低いことが示された。

表 6　体育と保健の関連を図った指導への意識の比較

| | 体育授業への意識Q3<br>運動領域 | 体育授業への意識Q4<br>保健領域 |
|---|---|---|
| 1：全くあてはまらない | 0.8%<br>(4人) | 0.8%<br>(4人) |
| 2：ほとんどあてはまらない | 5.2%<br>(26人) | 1.2%<br>(6人) |
| 3：あまりあてはまらない | 19.4%<br>(97人) | 9.8%<br>(49人) |
| 4：ややあてはまる | 38.2%<br>(191人) | 32.6%<br>(163人) |
| 5：だいたいあてはまる | 24.6%<br>(123人) | 35.6%<br>(178人) |
| 6：非常にあてはまる | 11.8%<br>(59人) | 20.0%<br>(100人) |
| 合計 | 100.0%<br>(500人) | 100.0%<br>(500人) |

Wilcoxon の符号付き順位検定

z 値 10.56　p 値 0.000

「体育授業への意識 Q1」と「体育授業への意識 Q3」の対応のある相関係数を求めたところ、やや相関があることが分かった (r=0.63)。この結果から、運動領域の授業で保健領域との関連を図った指導をすることを意識している体育主任は、運動領域の授業で健康三原則（運動、栄養（食事）、睡眠のバランスをとること）の大切さを取り上げることを意識している傾向があると考えられる。

### 4.6 「関連を図った指導」についての印象

図 5 は、表 7①から⑩までの設問への回答者の割合を表している。

これらの結果から、項目③から⑥といった運動領域内で保健領域の内容を取り上げる学習カードの形式や学習過程内に関連を取り上げる時間設定をするといった指導よりも、項目①、②、⑦から⑩といった保健領域の内容を運動領域内で実体験できるように指導することや具体的な運動領域の単元で関連付けて指導することによい印象をもっていることが分かった。

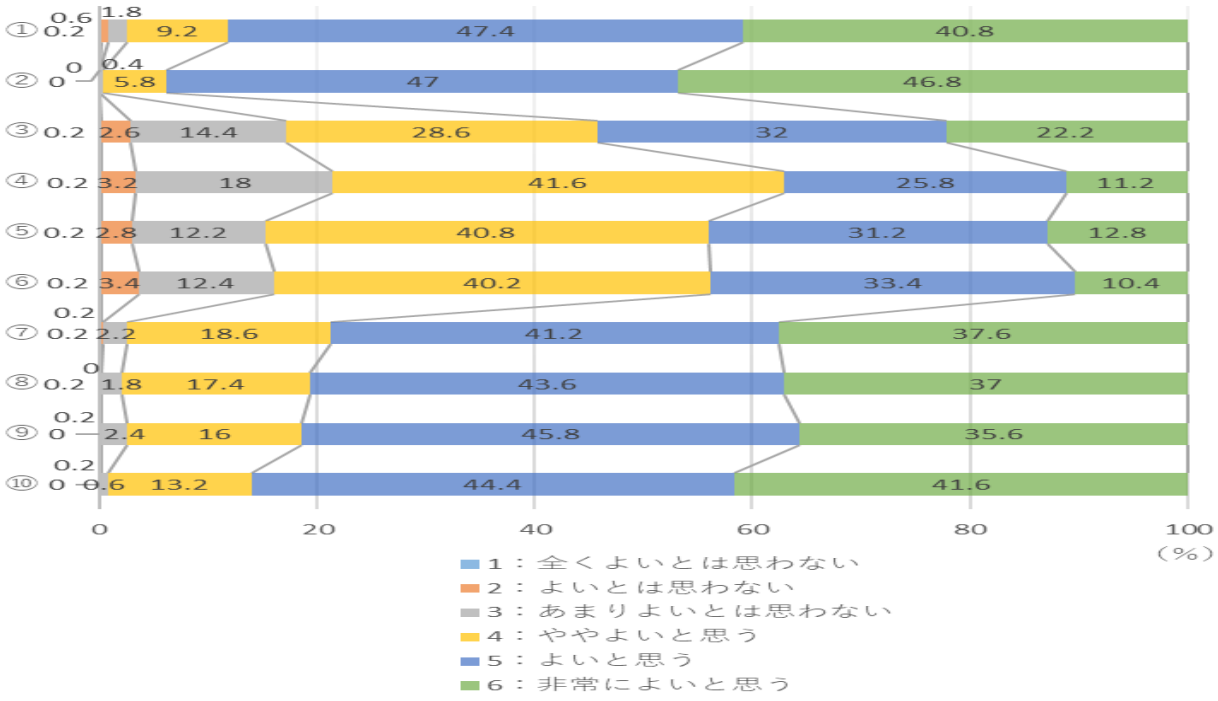


図 5　関連を図った指導についての印象を問う設問への回答者の割合

表７　関連を図った指導についての印象を問う設問

| | |
|---|---|
| ① | あなたは、保健領域で学習したことを、運動領域で実体験することをどう思いますか。 |
| ② | あなたは、運動領域で実体験したことを、保健領域で取り上げることをどう思いますか。 |
| ③ | あなたは、運動領域で使用する振り返りの学習カードに、保健領域の内容を入れることをどう思いますか。一例として、心臓の鼓動が速くなるといった運動と健康が関わっていることについて、記述を残せるようにすることが考えられます。 |
| ④ | あなたは、運動領域の一授業（４５分）の最後（振り返りの場面）で、保健領域の内容を取り上げることをどう思いますか。 |
| ⑤ | あなたは、運動領域のオリエンテーション（単元の第１時）で、保健領域の内容を取り上げることをどう思いますか。 |
| ⑥ | あなたは、運動領域の一単元の最後で、保健領域の内容を取り上げることをどう思いますか。 |
| ⑦ | あなたは、第４学年保健領域の「体の発育・発達」において、「運動については、生涯を通じて骨や筋肉などを丈夫にする効果が期待されること」の知識を習得したことを、運動領域「体つくり運動」の「跳ぶ、はねるなどの動きで構成される運動」を通じて行うなど、運動と健康との関連について具体的な考えをもてるよう指導することをどう思いますか。 |
| ⑧ | あなたは、第５学年運動領域の「体ほぐしの運動」についての意味や必要性について、保健領域「心の健康」の時間で理解できるように指導することをどう思いますか。 |
| ⑨ | あなたは、第５学年保健領域「心の健康」で学んだことを、運動領域「体つくり運動」の時間で実践し理解を深めるように指導することをどう思いますか。 |
| ⑩ | あなたは、第６学年保健領域「病気の予防」において、「全身を使った運動を日常的に行うことが、現在のみならず大人になってからの病気の予防の方法としても重要であることを理解すること」と、各運動領域において学習したことを基に「日常的に運動に親しむこと」を関連付けるなど、運動と健康との関連について具体的な考えをもてるように指導することをどう思いますか。 |

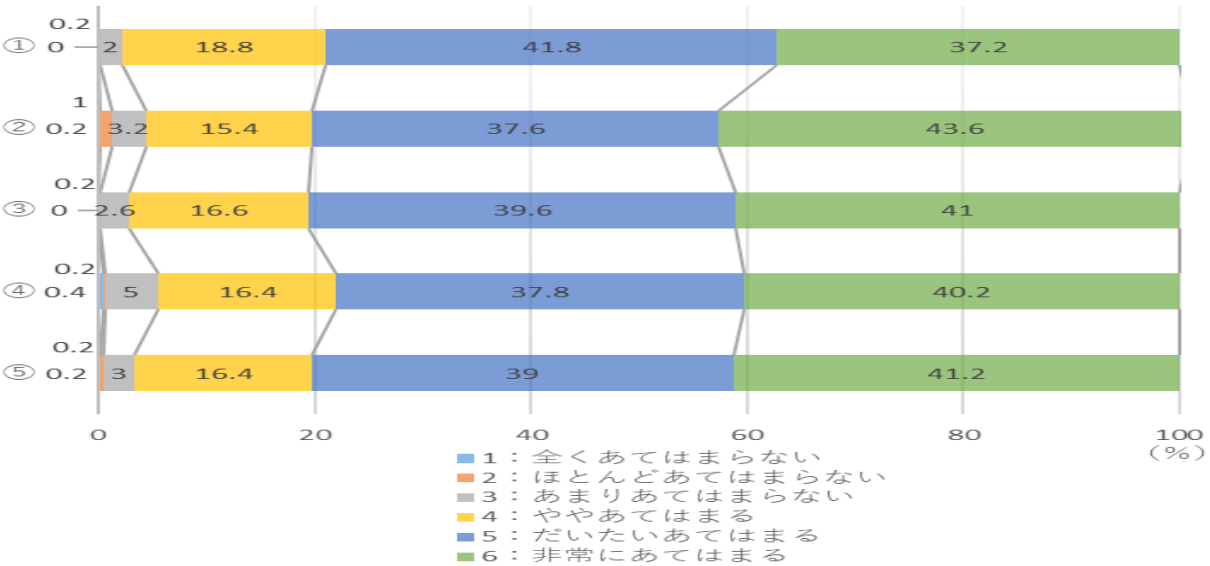


図６　「関連を図った指導」にあたって授業づくりをする際の対応について問う設問への回答者の割合

表８　「関連を図った指導」にあたって授業づくりをする際の対応について問う設問

| | |
|---|---|
| ① | 「年間計画配列の順序」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 |
| ② | 「目標・ねらい」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 |
| ③ | 「指導方法」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 |
| ④ | 「教具（学習カード等）」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 |
| ⑤ | 「教材（体ほぐしの運動等）」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 |

### 4.7 「関連を図った指導」にあたって授業づくりをする際の対応

図６は、表８①から⑥までの項目への回答者の割合を表している。

これらの結果から、「年間計画配列の順序」「目標・ねらい」「指導方法」「教具（学習カード等）」「教材（体ほぐしの運動等）」のいずれも「関連を図った指導」にあたって授業づくりをする際に対応が必要になると感じている教師が多いことが分かった。

## 5. 本研究のまとめと今後の課題

小学校体育科における運動領域と保健領域の関連を図った指導計画を構築に向けた基礎資料を得るために、体育主任に対して二つの領域に関する質問紙調査を行った。

その結果、以下のことが示された。

1) 体育主任の教職経験年数（キャリア段階）に関わらず運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画の作成は、未だ定着していないこと
2) 保健領域配置時期は「行事との関係」「季節や気候との関係」を理由に、保健領域の配置される時期が決定されており、年間指導計画上で運動領域との関連を意識した配置をしている学校は少ないこと
3) 保健領域の授業で運動領域との関連を図った指導をすることの意識に比べ、運動領域の授業で保健領域との関連を図った指導をすることの意識は低いこと

現状として、「4.2　キャリア段階と年間指導計画における関連性への意識の有無について」で示したように、体育主任が運動領域と保健領域の関連性そのものを十分に理解していない可能性が示された。また、「4.6 『関連を図った指導』についての印象」で示したように、方法の関連を図った指導よりも、内容の関連を図った指導によい印象をもっていることが分かった。

以上のような結果は、森（2018）の指摘する「運動領域と保健領域との関連を図ることが授業に反映されているとは言い難い状況にあるという課題」を裏付けるものとなった。また、野井（2017）の「体育と保健がからだをテーマに実践を組み立てることは、必然である」という考え方は未だ小学校現場では十分理解されておらず、実践につながっていない可能性が示唆された。

これらのことから、まずは「関連を図った指導」の必要性を理解できるようにするために、具体的な指導計画を提示する必要があると考える。

今後は、運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画とはどのようなものなのかを示していく。また、それと関連して、運動領域の授業で保健領域との内容の関連を図った具体的な指導の在り方を提示する必要があると考える。そのためにも、具体的な指導計画を実践して検証し、運動領域と保健領域の関連を図った指導計画モデルを構築していく必要がある。

なお、埼玉県内の公立小学校に勤務する体育主任を対象としたという研究上の課題もあるため、次回この実態調査をする際には、地域を考慮に入れ全国的な実態調査をする必要がある。

注

1)「4.3.1 運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていると回答した理由」の中で、「はい（運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっている）」と回答している者の記述から、「関連」という用語の捉えに個人差があるのではないかとも考えられた。

少数ではあるが、次のような記述があった。

「体育部、養護教諭を含めて計画しているから。」

「各学年で養護教諭が、保健学習を行っているため。（担任がＴ２で行っている）」

「長期休業前に設定することで、学習したことを実生活の中で生かせるようにするため。」

「薬物についての講義を児童が受けてから、授業に入るため。」

今回の調査の課題として、現場の体育主任が「運動領域と保健領域の関連」について、何をもって関連と考えているのか、関連の捉えがそれぞれである可能性が示唆された。

## 引用文献


Berliner David C. (1988)*The Development of Expertise in Pedagogy*. AACTE.

木原俊行（2004）『授業研究と教師の成長』. 日本文教出版.

小林稔, 高倉実（2003）「小学校体育『保健領域』の実施状況および教員の意識とその変化について(第 2 報)：新学習指導要領導入に対する準備状況と教員の意識」『学校保健研究』, 45 (3), pp. 257-269.

小林稔, 高倉実（2005）「小学校体育『保健領域』の実施状況および教員の意識とその変化について(第 3 報)：新学習指導要領完全実施前後を比較して」『学校保健研究』, 47 (2), pp. 172-180.

樋口耕一（2020）『社会調査のための計量テキスト分析 ：内容分析の継承と発展を目指して ：KH Coder official book』. ナカニシヤ出版.

前川峯雄編（1973）『戦後学校体育の研究』. 不昧堂出版, p. 112.

杢子耕一,柿山哲治,十河直太,家田重晴（2013）「教育実習における体育の授業での工夫に関するテキストマイニングによる検討:―自由記述形式の回答文の分析を通して―」『スポーツ教育学研究』, 33 (2), pp. 15-22.

森良一（2018）「新学習指導要領にみる体育と保健の関係」『体育科教育学研究』, 34 (2), pp. 45-52.

文部科学省（2017a）『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』. 東京書籍.

文部科学省（2017b）『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説体育編(平成 29 年 7 月)』. 東洋館出版社.

文部省(1947) 『学校体育指導要綱』.

文部省(1949) 『学習指導要領小学校体育編』.

文部省(1998) 『小学校学習指導要領』.

日本学校保健会（2016）『平成 28 年度　保健学習推進委員会報告書　―第 3 回全国調査の結果―』

野井真吾(2017)「子どもの “からだ” の現状からみる「からだの学習」の重要性」『体育科教育学研究』, 33 (2),　pp. 81-88.

大後戸一樹,久保研二,木原成一郎(2013)「ビデオ映像から読み取られた運動情報の内容分析:―小学 2 年生と 6 年生の記述内容の比較から―」『スポーツ教育学研究』, 33 (2),　pp. 23-33.

佐伯美千代・藤田雅文(2018)「小学校中学年体育における「体ほぐしの運動」の授業研究：チャレンジ運動による仲間づくりの効果の検証」『スポーツ教育学研究』, 38 (1),　pp. 71-82.

スポーツ庁（2018）『平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書』.文部科学省.

高橋健夫（1996）「これからの健康教育に期待すること－教科体育の立場から－」『体育科教育』, 44 (8), pp. 33-35.

高倉実,小林稔（2003）「小学校体育『保健領域』の実施状況および教員の意識とその変化について(第 1 報)：研究デザインとベースラインデータ」『学校保健研究』, 45 (3),　pp. 248-256.

田中滉至,山田浩平,古田真司（2016）「保健学習にお

ける小学校・中学校・高等学校教諭の意識」『東海学校保健研究』, 40 (1), pp. 75-88.

吉崎静夫（1998). 一人立ちへの道筋. 浅田匡 生田孝至, 藤岡完治編, 『成長する教師』, pp. 162-173. 金子書房.

【付記】本研究は笹川スポーツ研究助成（180B3-019）を受けて実施したものです。

資料１　質問紙１枚目

1 あなた自身のことや貴校についてお聞きします。
それぞれについて、該当するものに○をチェック、または記入をしてください。

チェック例 ● ✔

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 校務分掌（複数回答可） | 主幹教諭 ○ | 教務主任 ○ | 研究主任 ○ | 体育主任 ○ | 体育部に所属 ○ | その他 ○ | （　　） |
| 年齢（平成31年3月31日現在） | 歳 | | 体育主任　経験年数（平成31年3月31日現在） | 年 | | 性別 | |
| 教職経験年数（平成31年3月31日現在） | 年 | | 貴校　全校児童数（おおよその数で結構です） | 人 | | 男 ○ | 女 ○ |
| 教頭配置数 | 人 | | 養護教諭配置数 | 人 | | | |

| 貴校各学年学級数 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学級数 | | | | | | | 数字を記入 |
| 0 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 4 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 6 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 7 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 8 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 9 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

あなたの保有する教員免許の○をチェックしてください。（複数回答可）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ○ | 小学校 | ○ | 中学校・保健体育 | ○ | 高等学校・保健体育 |
| ○ | 養護教諭 | ○ | 中学校・保健 | ○ | 高等学校・保健 |
| ○ | 幼稚園 | ○ | 特別支援学校 | | |

資料２　質問紙２枚目

2 貴校の体育科年間指導計画作成に係る取組について、お聞きします。

| | | はい | いいえ | わからない |
|---|---|---|---|---|
| 1 | あなたは、貴校の体育科年間指導計画作成に関わるお立場にありますか。 | ○ | ○ | ○ |
| 2 | あなたは、これまでの教職経験の中で、体育科年間指導計画作成に関わったという経験はありますか。 | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 貴校では、体育科年間指導計画の作成・改善を、全教職員で進めていますか。 | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 貴校では、体育科年間指導計画の作成・改善を、一部の教職員で進めていますか。 | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 貴校では、毎年、体育科年間指導計画の見直しを行っていますか。 | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 貴校では、毎年、体育科年間指導計画の見直しを行う際に、運動領域と保健領域の関連について意識していると思われますか。 | ○ | ○ | ○ |
| 7 | 貴校では、運動領域と保健領域の関連を図った体育科年間指導計画になっていると思われますか。 | ○ | ○ | ○ |

8 上記の項目7において、「はい」「いいえ」を選ばれた方は、その理由をお聞かせください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9 | 貴校の第3学年保健領域は、何月に配置されていますか。 | 月と | 月 |
| 10 | 貴校の第4学年保健領域は、何月に配置されていますか。 | 月と | 月 |
| 11 | 貴校の第5学年保健領域は、何月に配置されていますか。 | 月と | 月 |
| 12 | 貴校の第6学年保健領域は、何月に配置されていますか。 | 月と | 月 |

13 貴校の第3学年以上の保健領域の配置が、上記の項目9～12の月に配置されている理由がありましたら、それぞれについてお聞かせください。

理由がある　○

理由はない　○

資料３　質問紙３枚目

| 3 あなたの体育科の授業について、お聞きします。 | 非常にあてはまる | だいたいあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | ほとんどあてはまらない | 全くあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 あなたは、運動領域の授業で、健康三原則（運動、栄養（食事）、睡眠のバランスをとること）の大切さを、取り上げていますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 あなたは、保健領域の授業で、健康三原則（運動、栄養（食事）、睡眠のバランスをとること）の大切さを、取り上げていますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 あなたは、運動領域の授業で、保健領域との関連を図った指導を意識していますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 あなたは、保健領域の授業で、運動領域との関連を図った指導を意識していますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| 4 あなたの運動領域と保健領域の関連を図った指導について、お聞きします。以下の項目のような関連を図った指導について、どう思いますか。 | 非常によいと思う | よいと思う | ややよいと思う | あまりよいとは思わない | よいとは思わない | 全くよいとは思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 あなたは、保健領域で学習したことを、運動領域で実体験することをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 あなたは、運動領域で実体験したことを、保健領域で取り上げることをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 あなたは、運動領域で使用する振り返りの学習カードに、保健領域の内容を入れることをどう思いますか。一例として、心臓の鼓動が速くなるといった運動と健康が関わっていることについて、記述を残せるようにすることが考えられます。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 あなたは、運動領域の一授業（45分）の最後（振り返りの場面）で、保健領域の内容を取り上げることをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 あなたは、運動領域のオリエンテーション（単元の第1時）で、保健領域の内容を取り上げることをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 あなたは、運動領域の一単元の最後で、保健領域の内容を取り上げることをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 あなたは、第4学年保健領域の「体の発育・発達」において、「運動については、生涯を通じて骨や筋肉などを丈夫にする効果が期待されること」の知識を習得したことを、運動領域「体つくり運動」の「跳ぶ、はねるなどの動きで構成される運動」を通じて行うなど、運動と健康との関連について具体的な考えをもてるよう指導することをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8 あなたは、第5学年運動領域の「体ほぐしの運動」についての意味や必要性について、保健領域「心の健康」の時間で理解できるように指導することをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 9 あなたは、第5学年保健領域「心の健康」で学んだことを、運動領域「体つくり運動」の時間で実践し理解を深めるように指導することをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 10 あなたは、第6学年保健領域「病気の予防」において、「全身を使った運動を日常的に行うことが、現在のみならず大人になってからの病気の予防の方法としても重要であることを理解すること」と、各運動領域において学習したことを基に「日常的に運動に親しむこと」を関連付けるなど、運動と健康との関連について具体的な考えをもてるように指導することをどう思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

資料４　質問紙４枚目

| 5 あなたが、運動領域と保健領域の関連を図った指導に取り組んでいくときの考えについて、お聞きします。以下の項目のような関連を図った指導について、どう思いますか。 | 非常にあてはまる | だいたいあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | ほとんどあてはまらない | 全くあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 「年間計画配列の順序」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 「目標・ねらい」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 「指導方法」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 「教具（学習カード等）」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 「教材（体ほぐしの運動等）」は、関連を図った指導にあたって対応が必要になると思いますか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

6　その他、具体例がありましたら、お考えをお聞かせください。

**※ 御多用の中、質問紙回答への御協力、誠にありがとうございました。**

**同封の返信用封筒（切手不要）にて2月18日（月）までに御返送（投函）いただけましたら幸いです。**

**森田　哲史**